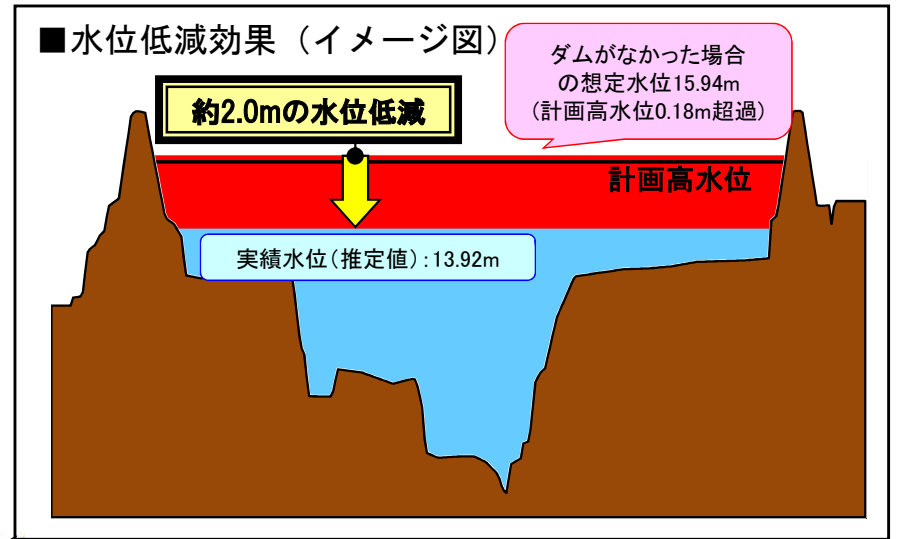
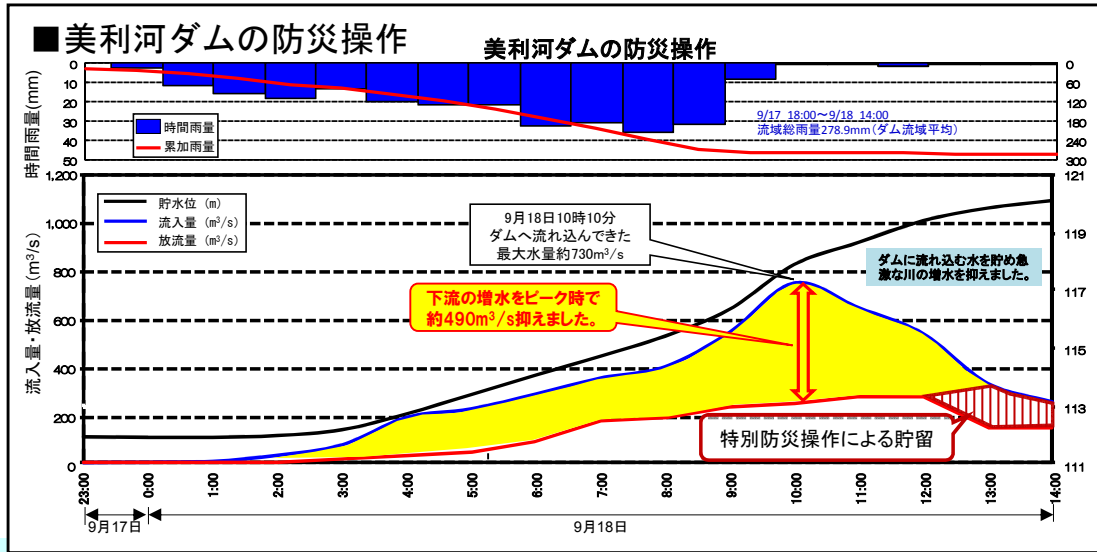
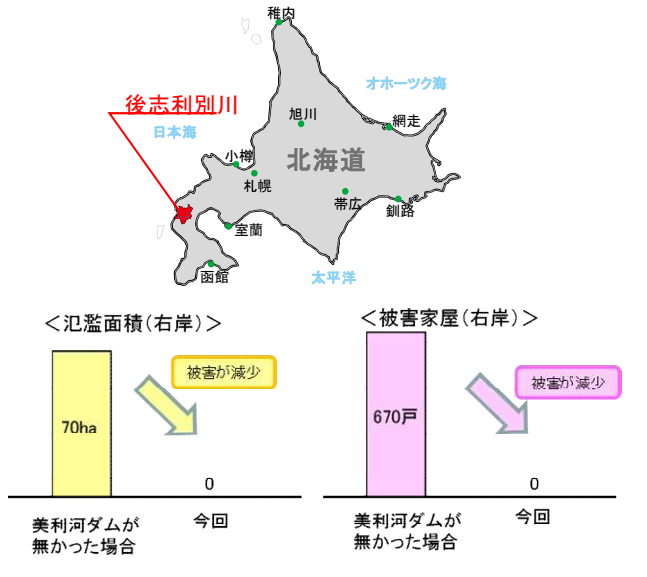
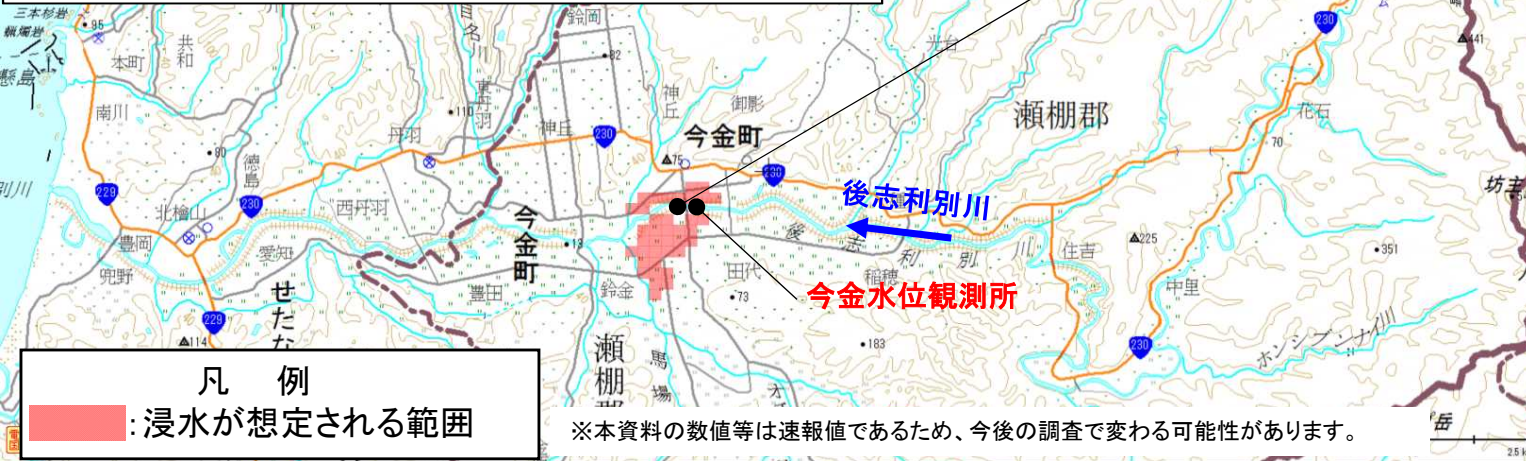


- 9月18日、台風第18号による豪雨により後志利別川流域において出水が発生。今金水位観測所では、昭和37年出水に次ぐ、**既往第2位の水位を観測**。
- 美利河ダムの洪水調節等によって下流河川の水位低減**を図り、今金水位観測所では避難判断水位以下に抑制。また、下流河川の状態を踏まえ通常の操作よりも多くの洪水を貯留する操作（特別防災操作）を実施。
- 仮にダムが整備されていなければ、**今金町市街地付近において計画高水位を上回る出水となり、市街地がある右岸が破堤した場合は約70ha、約670戸の浸水、左岸で破堤した場合、約200ha、約30戸の浸水**が発生していたおそれ。



美利河ダムを整備していなかった場合の浸水想定範囲(平成29年9月出水)



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

【施設効果事例】 紋別川1号砂防堰堤（北海道伊達市喜門別町）

災害発生日：平成29年9月18日（台風18号豪雨）
 降雨の状況：連続雨量 217.5mm（9月17日20時～18日16時）
 時間最大雨量 32.5mm（9月18日7時～8時）
 ※大滝雨量観測所
 だてしきもんべつ
 発生箇所：伊達市喜門別町
 施設規模：計画貯砂量 約100,000m³
 状況：台風18号の豪雨により流木が発生したが、
 砂防堰堤が流木を捕捉し下流地区への被害を軽減した。



災害発生前（砂防堰堤上流（満砂状態） 平成14年撮影）



災害発生後（流木堆積状況 平成29年9月22日 撮影）



全景

土砂・流木を捕捉

紋別川1号砂防堰堤